

大同情報技術株式会社様の事例

BCMS の登録範囲
測量技術を中核とした情報技術関連のサービス及びコンサルティングの提供における事業継続管理
BCMS を構築したきっかけと目的
<p>当社売上の9割は公官庁から発注される公共事業であり、大規模災害等の復旧・復興において必要不可欠な技術を有している。そのため、有事における人員・技術力の早急な確保により、社会からの要求に迅速に対応できる体制づくりの構築と運用が必要であった。またそのことにより従業員の経済的不安の解消や生活行動の早期正常化を果たし、社会の信頼と満足を得る企業となることを目的としている。</p>
BCMS に取組んで改善されたこと(事業継続戦略の実行状況、認証取得のメリットなど)
<p>BCMS 構築前まで災害等に対する意識が概念的であったものが、具体的な転倒防止策・必要機材の購入・備蓄等の物理的対策や、毎年10月1日に丸一日かけ全社で行う総合訓練などにより現実的なイメージとしてとらえることができ、従業員の事業継続に対する意識や取組みが目に見える形で変わってきた。特に3.11東日本大震災以降、行政においてBCPの理解が広まってきていることに加え、防災・減災関連の調査等の需要が高まり、BCMSの認証取得による企業の信頼度が直接受注に結び付きつつある。</p>
BCMS 構築・運用を通して気付いたこと(目標復旧時間達成状況[実践や演習などを通じた]についても)
<p>当社は毎年10月1日に総合演習を行っている。BCMSにおける是正処置の大半がこの総合演習により抽出されており、BCMSにおいて重要な位置づけとなっている。目標復旧時間達成については個々の訓練では問題は無く処理をされているものの、役割を持った各班との連携に問題が多く発生する。規格8.4.1.cにある「不測の脅威、及び組織内外の状況変化に柔軟に対応する」ための会社内での環境作り及び教育が現在当社の最重要課題となっている。</p>
BCMS を構築した時に苦労したところ
<p>当社は2006年中小企業BCP策定運用指針に基づきBCPを策定し運用を開始した。その後2008年にISMS認証取得により事業継続管理のPDCAサイクルを確立し、2009年にBCMS25999の認証取得、さらに今回のISO22301への移行と変遷している。そのため事業継続方針が先行した形となり、事業影響度評価あるいはリスクアセスメントにおいて、規格要求事項の適合性を再三繰り返し検証することとなり、多少あとづけ感が否めないものとなってしまった。</p>
東日本大震災やタイ洪水など、実際の脅威が発生した際にBCMSを構築・運用していたおかげで助かった点や課題
<p>3.11東日本大震災の発災時においては、人的・物理的な損傷は一切無かったが、近隣同業他社の聞き取りの結果、物理的資産の転倒・落下の被害が多く発生しており、当社における転倒防止策等の対策効果によるものと考えている。</p> <p>当社BCP発動の基準が震度5.5以上となっており、本事象が対象事象であるかは翌日以降、杉並区における震度5弱から5強であると確定発表されるまでBCP発動の判断ができなかった。(具体的現象をあげ、判断基準を作成し是正した)</p>

震災後 3 月 14 日に公共交通の麻痺・計画停電に対し、当社の繁忙期であること考慮した結果 BCP を発動し計画の人員配置、勤務日時調整等の対策を行ったが、BCP に対する日常的啓発により、従業員の理解のもと適格に行われた。

組織(経営)戦略実現のための、事業継続の位置付け

当社の BCMS の目的は本書 に示すように、日常的な業務の早期復旧を目指すものとは異なり、当社技術力の早期回復により、社会貢献を果たし企業価値を高めることにある。そのため緊急時のサプライの依存関係は、杉並区と同業組合内での連携、関東を中心とする全国同業組合との連携により補完することとし、協定の締結を行っている。また危機管理の徹底を企業イメージとして、新商品・新市場への進出をはかる。

BCMS を取得してよかったところ、他者に BCMS をお勧めするとすればどういうところが良い点か

BCP は、3.11 以降企業の中で必要であるとの認識が高まってきたが、策定した結果それがはたして有効であるかは常に懐疑的であった。BCMS の構築・運用について ISO による明確な指針が示されたことで、コストパフォーマンス等、経営資源の投入への弾みがつくこととなり、より強固なマネジメントシステムを確立することが出来る。またこのマネジメントシステムにより従業員の果たすべき役割が明確となり、個々人の危機管理に対する意識レベルが格段に向上した。

BCMS 規格に対する問題点・改善提案

この規格の要求事項の多くは企業の裁量にゆだねるものとなっているため自由度が広がった半面、規格自体の要求する事柄が見えにくくなっているように思える。この規格の各条項を作成した筆者の意図を解説し、例示された解り易いガイドがあれば、これから構築していく組織にとって役に立つと思う。